

なくそう原発 3.11 府民集会に 8000 人の参加！

3月11日、なくそう原発 3.11 府民集会が扇町公園で開催され 8000 人の参加で大きく成功しました。集会には手書きのプラカードを持つの参加者など自分の思いをアピールする姿も。また、多くのブースが立ち並び、被災地の農産物の販売なども行われました。

プレ企画では、ステージからラップや合唱、俳句などで、原発なくそうの思いを伝えました。

集会では原発ゼロの会・大阪の呼びかけ人の宮本憲一大阪市立大学名誉教授などから「原発神話は崩れました。今日の集会を原発ゼロ、新しいエネルギー政策を作る一歩にしよう」と呼びかけられました。



福島県で農業を営んできた三浦広志さんから福島の現状と再生への決意が語られました。震災発生の 14 時 46 分には犠牲者を悼み黙祷を行い、再び原発被害者

を作らせない決意を込め集会参加者で集会アピールを確認しました。



続くパレードでは「なくそう原発、すすめよう自然エネルギー」と元気に道行く人に訴えました。

労働組合の頑張りで展望を切り開こう

～北河内地区協 2・28 春闘学習決起集会～
2月28日にラポールひらかたで勤労協講師の槇野理啓さんを迎えて、国民生活破壊の「社会保障と税の一体改革」を許さず社会保障の充実を！を題目で学習会をひらきました。1980年代、サッチャー・レーガン・中曽根による新自由主義政策「福祉は活力を奪う」「競争してこそ成長する」「大企業が潤えば国民も潤う」等の推進から発端となり今日まで税と一体改革が進められてきています。現在の民主党政権は消費税を増税しようとしています。そうすると、貧富の格差が更に広



がり国民の生活は困窮します。高齢者が今後、増大するのに年金も減少するなど、国民いじめが続くことばかりです。「労働組合は労働組合というだけではない。労働組合が頑張る展望を開いていこう」との槇野先生の講演を受け、春闘勝利への決意を固めました。

要求提出・春闘交渉始まる

＝福保労＝

福祉保育労では分会が統一要求書を提出し、交渉が始まり春闘本番となっています。

こぐま保育園分会や大阪聴力障害者福祉事業協会分会あすくの里班では分会・班独自要求の前進に向け交渉をすすめています。

要求書にはパート職員の処遇改善などを盛り込み、非正規部会を結成して初の春闘となる福保労は、正規・非正規が一体となって要求実現に向けたたたかっています。

“府民共同で、雇用と仕事の確保、賃上げ、社会保障拡充で、内需中心の経済、震災復興を”

お願い！12春闘での各組織の取り組みを労連までお送り下さい